

平成30年10月9日
近畿総合通信局

南海トラフ地震に備えた情報収集・伝達の訓練・実証を実施 －陸自ヘリによる通信機器の空路搬送及び被災地から災対本部への 映像伝送実証を官民が共同して実施－

近畿総合通信局（局長：大橋 秀行）は、南海トラフ地震等の大規模災害に備え、陸上自衛隊、和歌山県と共同で、災害発生時に重要となる情報収集・伝達手段の確保を迅速に確立するための共同訓練を大阪・和歌山間で実施します。

本訓練では、総務省が貸与支援する災害対策用移動通信機器等を、陸上自衛隊ヘリで被災地（和歌山県串本町を想定）まで空路搬送し、応急・復旧活動のための高度な通信環境を串本町において設営する訓練や、公共ブロードバンド移動通信システムを利用して、被災現場や救助活動等の状況をリアルタイムに映像伝送し、現地と対策本部（和歌山県、串本町）との情報共有を図る実証を行います。

1 災害対策移動通信機器等の空路搬送訓練

（本訓練は、陸上自衛隊第3師団主催「平成30年度通信事業者等との協同訓練」として実施します。）

日時：平成30年10月15日（月）午前8時開始

目的：被災自治体への災害対策用移動通信機器等の貸与や通信環境構築の支援を迅速に行うため、関係機関と実践的な空路搬送訓練を実施し、連携を深めることで円滑な遂行を目指します。

参加団体：近畿総合通信局、陸上自衛隊第3師団、串本町、アイコム株式会社

時程：①08:00 近畿総合通信局からアイコム（通信機器保管業者）へ搬送指示

②08:30 陸上自衛隊八尾駐屯地へ搬送

③09:30 通信機器を搭載したヘリ離陸

④10:40 串本町上野山防災広場（串本町上野山291-1）着陸後、陸送

⑤11:15 串本町消防防災センター（串本町サンゴ台1256-1）到着

⑥13:15 まで ICTユニット（※参考資料1参照）の設営、運用訓練。

参加者に機器の説明及び試用デモを実施。

2 映像伝送システムを利用した情報収集・伝達の実証訓練

（本訓練は、和歌山県主催「平成30年度和歌山県津波災害対応実践訓練」の一環として実施します。）

日時：平成30年10月14日（日）午前9時開始

目的：被災現場や救助活動等の状況を撮影したリアルタイムの映像を、災害対策本部へ伝送し、対策本部で有効な情報把握が可能であるか、さらに、対策本部が必要とする映像を現場に伝え、要望に応じたリアルタイム映像の送信が可能であるかを、訓練を通じて検証します。

参加団体：近畿総合通信局、和歌山県、串本町、富士通株式会社、株式会社富士通ゼネラル、N T T未来ねっと研究所

時程：①09:00 串本町避難訓練（串本町上野山防災広場）

I C Tユニット（※別添資料参照）の設営、運用訓練

②09:00-11:30 海上・航空自衛隊による救出・救助訓練（串本沖）

内容：①及び②で実施する訓練の様子を撮影した映像を、公共ブロードバンド移動通信システムを利用して、串本町消防防災センターへリアルタイム伝送します。さらに、和歌山県情報ハイウェイ「きのくに e-ねっと」を通じて、串本町から和歌山県庁の災害対策本部室のスクリーンに映像を伝送します。（※参考資料2参照）

※参考資料

1 「I C Tユニットの概要」

2 「映像伝送システムを利用した情報収集・伝達の実証訓練の概要」

※訓練は、天候等により中止する場合があります。

連絡先：近畿総合通信局 防災対策推進室 （担当：大角、小田、渡辺） 電話：06-6942-8504

ICTユニットの概要

- 「ICTユニット」(アタッシュケース型)は災害時に迅速に通信ネットワークを応急復旧させることが可能な通信設備。
- 東日本大震災での教訓を踏まえて、総務省がNTT等に委託して研究開発を実施(H23~25年度)し、H26年11月に実用化。
- 被災地における必要な通信手段の確保及び支援のため、自治体等からの要請に応じて、貸し出しを実施。

<機器構成>

バッテリー (本体、Wi-Fi用)



(容量：22,000mAh)
(重量：580g)
※2本装備

ユニット本体 (IP電話用構内交換機、 情報処理サーバ)



(重量：約500g)

Wi-Fi アクセス ポイント



(重量：約100g)

ゲートウェイ (外線と接続用)



(重量：約500g)

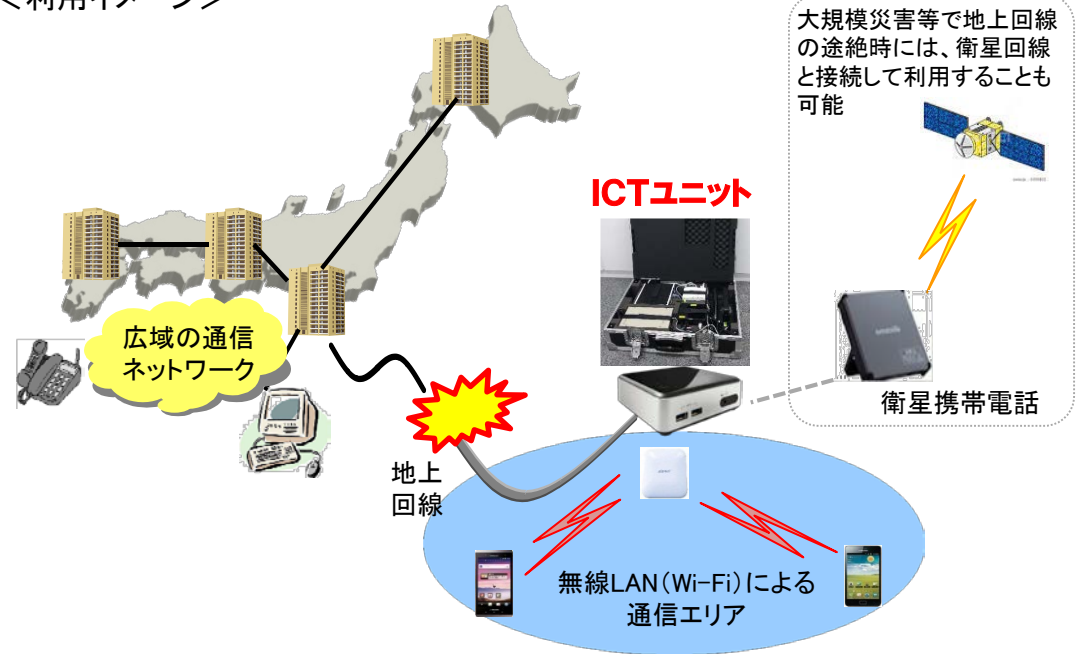
その他(衛星電話接続アダプタ、
接続ケーブル、その他)
(重量：約2kg)



※トランカーケースに格納

重量：約8kg程度

<利用イメージ>



【ICTユニット(アタッシュケース型)の特徴】

- 1) 普段のスマートフォンやタブレットを活用した音声通話とデータ通信を提供(直径約100m範囲)
- 2) 衛星回線・インターネット等との接続により、遠隔地との発着信が可能
- 3) キャリーケースで持運べ、ワンボタンで利用開始が可能
- 4) 搭載バッテリー(22,000mAh)で連続8時間使用可

ICTユニットの特徴

内線通話(発信/着信)が可能

普段使っている電話番号のまま発信、受信が可能です。



普段の電話番号、電話帳が利用可能

普段のスマホ等の番号が自動登録できます。
※SIMカードがある場合に限りです

普段のスマホ等の電話帳が使えます。



ファイル共有が可能

ファイルの種類を問わず、IP-PBX内にファイルを共有・保存ができます。



○Windowsは、エクスプローラで利用可能です。
○Androidは、ES File Explorer等のフリーウェアで利用可能です。

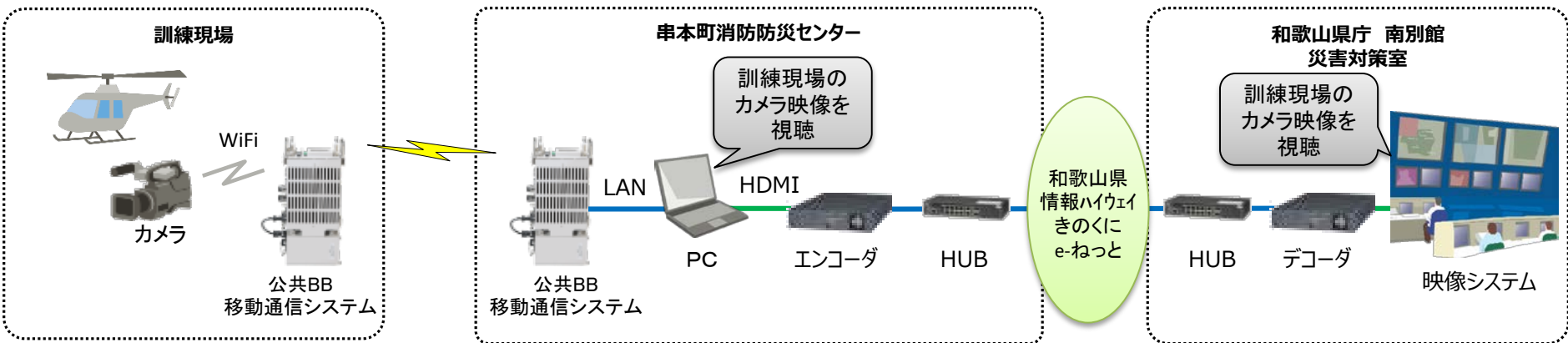
アプリの簡単なインストール

アプリを登録していなくても、IP-PBXからダウンロードすることができます。
※Androidに限りです。



映像伝送システムを利用した情報収集・伝達の実証訓練の概要

- ◇串本町で実施される訓練の様子を撮影し、公共ブロードバンド移動通信システムを利用して、町消防防災センターへリアルタイム伝送。
- ◇和歌山県情報ハイウェイ「きのくにe-ねっと」を通じて、串本町から和歌山県庁の災害対策本部室へ映像を伝送。



【大雨・地震災害への対応(利用イメージ)】

- 大雨による土砂災害や地震による道路損壊の状況を映像情報として災害対策本部に伝送。
- 災害対策本部では、被災映像を確認しつつ、適切な出動命令や救助要請を決定 等

